

しんらん同人

浄土真宗本願寺派 誓願寺 〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8 電話 03-3950-7828

古賀尚之師、誓願寺住職に

三年前から私が誓願寺の住職代務を務めさせて頂いておりましたが、この度、義弟の古賀尚之さんに誓願寺の住職を継職してもらうことが、二月の誓願寺役員会で決議され、その旨、

本山に申請をしましたところ、三月三十日付けでご門主が任命下さった由、石上智康本願寺総長より証明書を拝受致しました。

古賀尚之新住職は、昭和二十年十月五日生、福岡県出身。修猷館高校から山口大学を卒業して岩田屋、九州テニス協会に勤務。坊守を亡くした誓願寺前住職の兄と一緒に誓願寺を盛り立てて欲しい、との願いに応えて、夫婦ともども、一大決心をして上京してくれました。この四年間、私の下で尚之さんは誓願寺の副住職として、また妹の恭子も昨年得度し、坊守として、誓願寺を護り盛り立ててくれました。古賀家の長男の明徳も、今年東京仏教学院を卒業し、現在高槻の行信教校で将来、誓願寺を継ぐ覚悟で、猛勉強中です。

新生、誓願寺丸の出航です。聞法道場、誓願寺の名が益々広がっていくよう、新住職と坊守に対し、お同行の皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

釈 尚文 独り言 誓願寺 住職 古賀尚之

この度、本山のご承認をいただき、三月三十日付で「浄土真宗本願寺派誓願寺」住職に就任いたしましたことをご報告いたします。また、これに伴う「宗教法人誓願寺」の諸登記も完了いたしました。

この「しんらん同人五月号」に、新たな決意と方針を！と考えましたが、結論は「皆様方と相談しながら、一歩一歩気負わずに」というところに落ち着きました。

あれもこれも、やりたい事は色々ありますが、今までの行動を土台に進む所存です。

皆様方の変わらぬご指導ご助言を、お願ひいたすものであります。

五月には半年ぶりに福岡の孫達が一週間ほど上京します。三月の中旬からあれもしようこれもしようと想い描き、一人で楽しんでいます。

望めばかなう！一方、思い描かないものは、かなつてもわからぬし、楽しくありません。皆様とお寺のあるべき将来を、沢山沢山思ひ描きたいものです。

私の長男・古賀明徳は、東京仏教学院での一年間の学習を終了し、四月から大阪の行信教校に進みました。これから一ヶ月間勉学に励んで成長してくれる事を期待いたしておりますが、これは本人が決めることでしょう。見守つていきたいものです。

久しぶりに坊守との二人きりの生活です。皆様のお訪ねをお待ちしております。

合掌

平成二十八年度誓願寺新役員並びに衆徒の紹介

代表役員	古賀尚之（住職）
責任役員	古賀恭子（坊守）
責任役員	近藤 敬（門徒総代）
責任役員	川内八重子（門徒総代、婦人会会長）
	金城昭子（門徒総代）

誓願寺衆徒

岡本泰寛
岡本真哉
藤田 真
藤田明子

岡本泰寛
岡本真哉
藤田 真
藤田明子

古賀恭子
小松米廣

衆徒とはお寺に属している僧侶のことです。

そもそもお墓なんかいらない、死んだら骨は海でも山にでも撒いてくれればよいといった遺言を残す人が非常に多くなっています。樹木葬(樹林墓地)というのは石のお墓や納骨堂に納骨するのではなく、樹木の下にお骨を埋めて、自然の土に還すというものだそうです。数ヶ月前にテレビのニュースで、都営の小平霊園に五百体分の新しい樹林墓地ができ、募集したところ一万人近くの応募があつたとのことでした。その謳い文句がいい、東公の東京都の勧めです。「死後は安らかに自然に還りたい」という多くの都民の皆さまの思いに応えられるよう安い価格で・・・。大自然に抱かれ緑に囲まれた環境で自然に還ることができる・・・。コブシ、ヤマボウシ、ネムノキ、サクラン、バラ等に囲まれて・・・。」

人間は誰もがいつか死を迎えるに限ります。息が切れたら、耳元でどんなに大きな声でその人の名を呼んでも何の反応もありません。目も見えなくなるのでしょう。きれいだ、美しいだなどと感ずることもできなくなるのでしょうか。自然に還りたい、花に囲まれていて、安らかに眠りたいと思うのは今生きている人間です。問題は、今生きている人間が死んでいくまでの過程です。また、「私はいつ死んでも大丈夫、お念佛のお陰で安心して死んでゆけます。」と言えるような確固たるこころを持たせてもらうことではないでしょうか。

「安らかにお眠りください。」「ご冥福をお祈りします。」
と亡き人を思う言葉も空しく響きます。

今頃、新聞やテレビ等で、樹木葬(樹林墓地)について多く報道されています。現代日本ではお墓に対する認識が急速に変わつてきているようです。お墓離れ、散骨、樹木葬、手元供養等々。

樹木葬(樹林墓地)を思う

岡本信之

自然に還るよりも、花に囲まれるよりも、安らかに眠るよりも、浄土に還り仏さまにならせていただくと信じていくお念佛の道が最勝の道です。

真宗念佛者の生活

誓願寺前々住 岡本泰雄

(吉本福之)

この喜びは、今現に攝取の光の中であり、やがて安養のお淨土に参らせていただくという、安心から生まれるものである。真宗念佛者たること、何という幸せの身であろうか。

一、自己反省の心が深くなる。

一、他人を責めないで、自己の責任を感じる。

一、いつまでも愚痴を言わない。宿業に気づかせられる。

一、如来は、我を見通されていると知る。冥見に恥じる。

一、限りなき慈悲をいただくから。

一、御恩を有り難くおもう。

一、思いやりの心が深くなる。

一、いのちの尊さをおもう。

如来の救済には条件はない。人間の善悪や、賢愚や、身分の良し悪しを問題とせず、唯如来の本願を信じ念佛申すばかりで救済にあづかるのである。如来は迷える我を救わんがために、南無阿弥陀仏を成就したもうたのである。この広大無辺の大慈悲に抱かれる安心を得たものが念佛者である。光り限りなく、いのち限りなき淨土に生るる身と成らしめるには、道徳や修養は問題にはならない。しかし、念佛者は、如来の慈光に生かされた身であるから、自ら、その生活も正され、美しく莊嚴されてゆくのである。真実信心の念佛者は「せねばならぬ」という義務感ではなく「せずにはおれぬ」という報謝の行として生活が行われてゆくのである。念佛者といつても一律ではない。そのいだく信は一つであって、だれの信も変わりはないが、その業はみんな違うのであるから、報謝行のあらわれも各々違った形であらわれることであろう。だから、念佛者であればかくあるべしと決めらるべきものはないが、概ねこんな形であらわれるであろうことをここに記してみたい。

念佛者は、南無阿弥陀仏の行者である。南無とは、すべてをおまかせして、安心すること、阿弥陀とは無量、無限ということと、量り知れぬ光(智慧)と寿(慈悲)の仏に全托して安心する者が、念佛者であるから、その念佛者は、無限の光に照られ、無限の慈悲に抱かれる身である。

(shinran 同人第三十九号 昭和四十年八月発行より)

五月のご法座、行事のご案内

八日（日）午前十時	定例法座 上野隆平師
正午	医療相談 佐藤公彦医師
十五日（日）午前十時	なかよしクラブ 乳幼児から小学生まで
廿二日（日）午後一時	永代経法要 合同祥月命日法要 講師 岡本信悟師
十二日（日）午前十時	定例法座 岡本信之師
十九日（日）午前十時	医療相談 佐藤公彦医師 なかよしクラブ 乳幼児から小学生まで
廿六日（日）午後一時	定例法座 高田慈昭師 合同祥月命日法要

六月のご法座、行事のご案内

*新緑萌え、鳥は歌い、色とりどりの花咲き、暖かな日差しを浴びて心浮き浮き、と言いたいところですが、熊本、大分の人たちのことを思うと、何ともやるせない思いで一杯になります。一刻も早く地震が収まり、復興がなされることを願うばかりです。東日本大震災に遇い、今なお仮設住宅で不便な生活を送つておられる方々が十何万人もおられるとのこと、今こそお国の一大事、安倍首相の手腕の發揮のしどころです。海外の支援も大切ですが、先ずは我が国、日本の問題解決が先決です。特朗普さんの考え方賛成（？）したくもなります。

*三月にはネパールのカトマンズ本願寺の落慶法要にお参りした後、インドの仏跡参拝七日間の旅、そして四月には坊守と二人で福山での結婚披露宴の出席に合わせて、広島、四国と車で周る一週間の旅をしてきました。元気に無事にもどれてほつとしています。

*五月二十二日（日）午前十一時よりの永代経法要には三月末に九年間のハワイ教団開教使を辞して帰国した大恩寺の若院、信悟に法話をしてもらいます。お誘い合わせてお参りください。
*七月からのしんらん同人の編集、レイアウト等は新住職のもので発行されます。新しい「しんらん同人」ご期待下さい。
*いつもぎりぎりの原稿、編集、レイアウトで皆さまのご期待に添うことができなかつたのではないかと、いささか心配をしておりますが、この二年間、お読みいただき、ありがとうございました。